

本部だより

令和5年3月15日 発行

全国公立小・中学校女性校長会

会長 小池 夏子

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-13 全日本中学校長会館302号
TEL03-3502-0313 FAX03-3502-0075 E-mail:queen@m9.dion.ne.jp



全国公立小・中学校女性校長会
会長 小池 夏子

皆様、おはようございます。

はじめに、自然の猛威による災害の発生により、不安を抱えたままの年末年始である人々がおられることに対し、一日も早く日常の生活が戻りますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、平成から令和へと変わったのがついこの間のようになっておりましたが、早くも令和5年の新春を迎えました。一方、新型コロナウイルス感染症の流行が、これほど長きにわたって続くということは、感染症の発生当時はだれも予想しえないことでした。全国の皆様におかれましては、引き続いての感染症対策を講じながら、教育活動の充実にご尽力されていることと存じます。

本日は、校務御多用のところ、令和4年度 第2回理事会にご参加いただき、ありがとうございます。今回は、対面でのご参加と、オンラインによるご参加の両方によるハイブリッド開催となっております。久しぶりに対面でお目にかかるうれしさと、オンラインでつながることができるうれしさ、この両方の良さがここにあることを、改めて実感しております。

また、皆様には、7月末に開催されました全国研究協議大会石川大会の御支援・御協力に心から感謝申し上げます。石川県会長 橋 陽子様、実行委員長 本間 啓子様をはじめ、石川県実行委員会の皆様によるオンデマンド開催という工夫と、本日お集まりの皆様の御協力のお陰で、引き続きのコロナ禍ではありましたが、会員の皆様の心に残り、学校経営の示唆に富む、全国研究協議大会を開催することができました。まさしく、全国公立小・中学校女性校長会の「活動を止めない」という強い願いが実現できたことに、心から、御礼申し上げます。

本日の第2回理事会は、今年度の活動を御報告し、来年度の活動方針案や事業計画などについて、皆様に御審議いただき、本会の活動をより活性化させ、発展させるための御意見を頂戴する場です。限られた時間ではございますが、有意義な会合になれば幸いに存じます。

先ほど述べましたように、新型コロナウイルス感染症流行の長期化により、依然として、学校生活への様々な影響が続いております。しかし、この間、厳しい制限のあった流行当初から、学びを止めずに工夫を凝らし、少しずつコロナ禍前の教育活動を取り戻す一方、タブレット端末の一人一台活用など、ICTの充実による新たな学びも進んできております。

私たち校長には、学習指導要領における「令和の日本型学校教育」の構築、GIGAスクール構想の更なる充実、いじめ問題の深刻化や特別な教育的支援を必要とする児童生徒及び不登校児童生徒への支援、教職員の働き方改革など、様々な課題への解決が求められております。しかし、このような時代にあるからこそ、私たち校長は、目の前の子供たちが生き生きと輝き、困難に対しても、協力しながら解決し、なお一層健やかに成長していくため、教職員がそのもてる力を的確に発揮し、さらに力を伸ばし、互いに協働して教育活動を行えるよう、同僚性を高めながら、「チーム」として、教育活動のさらなる充実を図っていく必要があります。

現在、本会の会員数は4500名を超えております。大変喜ばしいことです。一方、ジェンダー・ギャップ指数の結果からは、日本の教育自体のスコアは高いにもかかわらず、女性教育管理職の登用が少ない現状があります。今後も引き続き、私共の会が活動方針に掲げているように、一人一人が個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の促進に積極的に取り組み、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図ることが、ますます重要になってまいります。

石川大会で記念講演をくださった脚本家の水橋 文美江様が、「30年くらいこの仕事をやってきているので、自分のパターンというものが何となくできていて、自分の作品の世界観がちょっと固まってきていることを恐れている。それで、アップグレードしようと、新しいことにどんどん挑戦しようと思っている。」とおっしゃっておられたのが大変印象に残っております。

私たちに求められている課題の解決と、女性管理職の登用を図るべく、まずは、校長自ら、アップグレードし、精進に努めてまいりましょう。そして、全国の皆様とこれまで以上に絆を強め、情報やアイデアを相互に交流し、それぞれの学校経営に生かし、女性管理職の登用に力を尽くして参りましょう。

令和5年度は、第73回全国研究協議大会を山口県山口市で開催いたします。現在、山口県実行委員会の皆様準備に力を尽くして下さっております。理事の皆様と、歴史と文化、豊かな自然があふれる山口県でお会いできますことを心から楽しみにしております。

今年は、「癸卯」（みずのと・う）の年です。「みずのと」は、新たな生命が成長し始めている状態を意味し、「う」はうさぎの名の通り、跳ね上がり、希望にあふれ、物事がよく動いていく状態を意味するそうです。これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年になることを心から願い、挨拶とさせていただきます。

顧問 挨拶

顧問 荒井 令子

季節外れの暖かさで、我が家の梅が一輪咲いており、本日の理事会の開催を祝福しているように感じました。

本日は、諸々の報告・協議事項についてご審議いただき、令和4年度の活動、令和5年度の活動案等をご承認いただけたら幸いです。本会は、多くの諸先輩方の努力により、女性校長の地位の確立、人材育成を図りながら、学校教育の推進に寄与して参りました。令和の時代に入ってから、女性管理職の登用が増え続け、令和4年度の会員数は4672名でした。大変喜ばしいと思っております。

さて、コロナ禍に入ってから夏の全国研究協議大会ですが、令和2年度の徳島大会は、初の誌上開催、令和3年度の兵庫大会はオンデマンド配信と誌上開催、そして、今年度の石川大会は、これまでのノウハウを活用して、オンデマンド配信を踏まえた誌上開催でした。英知を結集し、進化した大会になりました。第113号石川大会特集号には、参集型開催を断念し、オンデマンド開催に向けた新たな目標を設定して取り組んだ様子が記載されていました。オンデマンド配信のメリットや全国の校長先生方のつながりを形に残してくださった石川大会実行委員会の皆様に感謝と敬意を表します。

結びになりますが、新型コロナウイルスの流行から3年、マスクを外して暮らせる日がいつ来るのか、大変関心があります。また、今年は卯年。ぴょんと跳んで、全国研究協議大会山口大会に皆で参集して開催できることを切に願って、全国公立小・中学校女性校長会のますますの発展と理事の皆様方のご健勝をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

報告事項

- 1 令和4年度中間事業報告…………… 庶務部長 則岡 小織
- 2 令和4年度中間決算報告…………… 会計部長 井口美由紀
- 3 令和4年度中間監査報告…………… 監 査 藤島小百合
- 4 第72回 全国研究協議大会「石川大会」報告…………… 石川県理事 本間 啓子
* 1～4は、適切に執行・実施された。

協議事項

- 1 令和5年度活動方針案審議…………… 対策部長 宮崎 朋子
- 2 令和5年度事業計画案審議…………… 庶務部長 則岡 小織
- 3 令和5年度予算案審議…………… 会計部長 井口美由紀
* 1～3は異議なく、承認された。

- 4 全国研究協議大会開催県・発表県…………… 対策副部長 江口 千穂
(1) 本会加入県数減少等に伴うローテーションの仕組みの変更について
原則、9年間（大会1回、発表5回）で一巡するが、東北地区についてはローテーション2回で一巡（17年で1サイクル）とする。その関係で、令和16年度は、一部の地区が連続発表とならないため、2-2を本会本部役員が担当する。
(2) 令和8年度 大会開催地区・県 発表地区・県について

大会開催	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2
東北・青森	東 京	中学部・東京	関東・千葉	四国・高知	中部・岐阜	北海道

- 5 令和5年8月3日(木)・4日(金) 開催 第73回「山口大会」

- (1) 大会実施計画細案について…………… 山口県理事 富田 紀子
大会目的・主題等、分科会・分散会の指導助言者、記念講演等について提案された。

〈訂正〉P6「12 分科会主題及び分散会協議題一覧」の第2分科会・第2分散会③の氏名訂正
「坂本 智子」→「金田 佐智子」

- (2) 大会運営全般について 庶務部長 則岡 小織
令和5年度 第1回理事会・総会のもち方(日時・場所・内容等)について提案された。
* (1)(2)の提案について承認された。

6 令和6年8月1日(木)・2日(金)開催 第74回「北海道大会」..... 北海道理事 鈴木真由美
*副主題設定理由の詳細や分科会主題・分散会協議題等、大会実施計画案について提案され、承認された。

7 令和7年7月31日(木)・8月1日(金)開催 第75回「東京大会」..... 東京都理事 山浦 桂子
*大会目的、会場、大会日程、記念講演講師等、大会の素案について提案され、承認された。

選考委員長報告 選考委員長 山浦 桂子
*「全国公立小・中学校女性校長会会則」第二章役員 第6条1～2に則り、令和5年度会長・副会長を次の通り選出した。

会 長	東京都・品川区立城南小学校長..... 宮崎 朋子
副 会 長	埼玉県・鴻巣市立赤見台第一小学校長..... 大澤 紀子 山口県・光市立室積小学校長..... 正木 郁子 北海道・札幌市立菊水小学校長..... 山下 尊子

監査の選出 中部地区代表理事 本間 啓子
*第1回オンライン理事会で決定した通り、令和5・6年度の監査は中部地区から推薦された。

監 査	石川県・金沢市立長田町小学校長..... 中川 佳美
-----	----------------------------

令和5年度組織運営について 会 長 小池 夏子
*令和5年度5部長が次の通り、報告された。

庶務部長	東京都・杉並区立杉並第一小学校長..... 山口祐美子
会計部長	東京都・新宿区立富久小学校長..... 井口美由紀
対策部長	東京都・北区立王子第二小学校長..... 江口 千穂
広報部長	栃木県・栃木市立皆川城東小学校長..... 金敷美由紀
研修部長	山口県・周南市立夜市小学校長..... 清水 聡美

*なお、令和5年度 顧問は、小池 夏子 現会長が就任。

*新会長・新役員の挨拶に続き、改めて令和5年度の組織運営について宮崎新会長から発表があった。

報告・連絡事項

- | | | |
|-----------------------------|-------|-------|
| (1) 各都道府県の活動状況調査依頼について..... | 対 策 部 | 藤井 良江 |
| (2) 会報113号について..... | 研 修 部 | 永草いづみ |
| (3) 会報114号について..... | 広報部長 | 原 真理子 |
| (4) 各都道府県会員名簿の提出について..... | 庶 務 部 | 山口祐美子 |
| (5) 地区大会について..... | 対 策 部 | 四家 薫 |
| (6) ホームページについて..... | 対 策 部 | 川辺 章絵 |
| (7) 表彰状の贈呈について..... | 対 策 部 | 増渕 裕美 |

令和5年度 全国公立小・中学校女性校長会活動方針(案)

全国公立小・中学校女性校長会は、結成以来義務教育の充実・発展に努めるとともに女性管理職の育成、並びに女性教員の資質の向上や活躍の場の拡大を目指し、たゆみない研究と実践を重ね、今年73年目を迎えた。その成果は我が国における女性管理職の登用と女性の社会進出に大きく寄与している。教育改革推進と男女共同参画社会の更なる促進に向けて女性校長に寄せられる期待は大きく、それに応えていくことが本会の使命である。

今日、情報化、グローバル化、技術革新等により、子供を取り巻く環境が多様化・複雑化している。また、成人年齢引き下げにより、社会的な環境の変化も生じている。これらの変化の激しい予測困難な時代を生き抜くために、我が国の教育には、自らの生涯を社会の中で生き抜き、持続可能な社会の作り手として国際的に活躍する人材の育成が求められている。全国の小・中学校においては、「令和の日本型教育」の考え方を基盤とし、学習指導要領の理念である「生きる力」を育む創意ある教育活動を推進するとともに、「より良い学校教育を通じてより良い社会を創る」という理念を社会と共有し、社会に開かれた教育課程の実現を通して教育成果を示すことが重要である。

そのためには、喫緊の課題であるいじめ、不登校などの様々な問題行動への対応、情報モラルを含む規範意識の確立、特別支援教育の充実、体罰の根絶等の課題を解決する必要がある。また、頻発する甚大な自然災害発生に際し、自ら身を守り、主体的に行動する力を養う防災教育を推し進めていかなければならない。さらに児童生徒が「新しい生活様式」を身に付け、健康な生活を送るための対応力・行動力を育成することも求められる。校長は、これらの多岐にわたる課題の解決に向けて学校経営力を高め、全力を傾注し、国民の信託に応えていかなければならない。

そこで、本年度は、本会の研究主題を「自ら未来を切り拓き、共により良い社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」とし、全国の公立小・中学校女性校長が、共に研鑽に励み、本会の充実・発展と活動方針の具現化に努めることを目指し、次の活動を重点とする。

1 全国公立小・中学校女性校長会の組織の強化と活動の充実

全国公立小・中学校女性校長会と各地区・各都道府県女性校長会との連携を一層密にし、組織の力を強め、活動の充実を図る。

2 自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進

「高い志をもち、つながりを生かしてしなやかに生き抜く子供を育む学校経営」（令和5年度大会副主題）を推進する。重ねて、各地域の課題に即応して、児童生徒の「生きる力」を育てる学校経営に取り組み、教育成果を示す。

3 学習指導要領の理念を実現する創造的な教育課程の充実

生命と人権を尊重し、「主体的・対話的で深い学び」を視点として授業改善に取り組むことにより、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」をバランス良く養い、「生きる力」の確実な育成を目指す。そのために、社会に開かれた教育課程を編成し、地域と学校の連携・協働を推進する。

4 「生きる力」を育むための教員の資質・能力の向上

確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成するための指導力、GIGAスクール構想の推進のための高度な専門的知識やICT活用指導力、地域と連携・協働する力などを向上させる。そのために、研修活動の充実を図り、学び続ける教員としての意識を高め、社会から信頼され、尊敬される教員を育成する。

5 特色を生かした学校経営

校長の経営方針のもと、「チーム学校」としての学校経営の具現化を目指し、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図り、家庭・地域社会や学校間の連携を強化し、活力ある教育活動を推進する学校経営に取り組む。

6 学校における働き方改革の実現

これまで高い成果を挙げてきた学校教育を維持・向上させながら、持続可能なものとさせていかななくてはならない。そのため、学校組織運営の一層の効率化や人的・物的面の整備等により教員の負担軽減を図り、学校における働き方改革を推進する。

7 男女共同参画社会の促進

一人一人が個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の促進に積極的に取り組むとともに、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図る。



【学校における新型コロナウイルス感染症対策について】

学校全体の臨時休校は横ばいだが、特定の学年・学級は増加傾向にある。給食等の場面は、従来から必ず「黙食」は求めているが、「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」の変更より、感染状況を踏まえつつ、地域の実態に応じた取組を検討する。十分な身体的距離の確保や体育の授業等や登下校の際は、マスクの着用の必要はないが、外すことを心配する子供もいる。活動場面や場所に依じた対応や配慮が必要である。補正予算242億円を計上し、引き続き、教育活動を継続できる体制を整え、感染リスク低減を図る対策等の支援事業を行っていく。

【学習指導要領、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(中教審答申)』について】

各地域、自治体が創意工夫し、子供たちの資質・能力を高める充実・発展の時期である。「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行い、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けられるようにする。「個別最適な学び」と「協働的な学び」には、1人1台端末の活用は欠かせないが、孤立した学びに陥らないようにする。義務教育の在り方ワーキンググループを設置し、「義務教育の意義」「学びの多様性」について議論している。異学年、他地域、外国等の遠くの人々との交流、ICT端末を使って多様な他者との交流をさせていくことが重要である。

【幼児教育と小学校教育の架け橋について】

0～18歳まで見通した学びの連続性に配慮しつつ、幼児教育との接続期である5歳児と小学校1年生の「架け橋期」に着目する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解を深め、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及する。「幼保小の架け橋プログラム」の予算を2.8億円計上しており、モデル地域の設定・検証を通して改善を図る。

【GIGAスクール構想の推進について】

義務教育段階の1人1台端末は、令和3年度内に整備完了した。Wi-Fi環境の整備や効果的な活用につながるよう、支援の充実を図る。授業で活用している学校の割合は、全国の8割以上が週3回以上であるが、地域差がある。一方、毎日持ち帰り、家庭で利用できるようにしている学校も全国平均23.4%である。1人1台を適切に使い、しっかり活用できるよう教育委員会と相談し、推進していく。また、校務のデジタル化も進めていく必要がある。GIGAスクール運営支援センターの機能を強化し、システム更新をしてスムーズな環境へとしていきたい。個別最適な学びと協働的な学びの一体化な充実をさらに推進するため、学習者用デジタル教科書の効果的な活用が必要である。事例集・研修動画を活用してほしい。

【小学校における35人学級の計画的な整備と高学年の教科担任制の推進について】

令和3年度から7年度にかけて公立小学校の学級編成制の標準を段階的に40人から35人に引き下げ、外部人材の活用に関する実証的な研究も行っている。教科指導の専門性をもった教師による高学年の教科担任制の推進等を図り、新しい学びの環境整備のため、令和5年度は教職員定数4,808人の改善を図る。

【教師の資質能力の向上等について】

今後の改革の方向性は、「新たな学びの環境の実現」「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」「教職志望者の多様化や教師のライフサイクルの変化を踏まえた育成と安定的な確保」である。「新たな教師の学び」を支える研修体制の構築のため、令和4年度は27億円、令和5年度は、13億円を計上。教師が合理的かつ効果的に研修を受講できるようにするため、オンライン研修コンテンツを開発・充実させる。

【学校における働き方改革について】

依然として、長時間勤務の教職員が多い状況。「全国の学校における働き方改革事例集」改訂版の様々な事例を参考にしてほしい。令和5年度は、教員業務支援員と学習指導員等を配置のため、91億円を計上しており、学校教育活動の充実と働き方改革の実現を図る。部活動は、子供の成長に大きな役割を果たしているが、少子化により、学校単位での運営が困難になってきている。地域の子供たちは、学校を含めた地域で育て、持続可能で多様な環境を一体的に整備する。

【特別支援教育について】

特別支援教育を受ける子供が10年で10倍に増加している。全教師に特別支援教育への理解と専門的な知識をもたせ、通常学級に在籍する児童・生徒への指導を充実させ、質の高い、インクルーシブ教育を推進する。

【いじめ・不登校支援・児童虐待対応等について】

いじめの認知件数、重大事態の件数が増加している。いじめを見逃さず、警察等と連携して根絶していく。また、自ら命を絶つ件数も増加傾向にある。SOSの出し方に関する教育を含めた予防教育等を充実させていく必要がある。子供が自ら命をたつようなことがあってはならない。

不登校は9年連続増加。不登校特例校を設置し、指導の充実を促進する。

虐待も増加している。研修教材や手引きを参考にして、教師が気づき、対応できるようにする。

ヤングケアラーは教育委員会と福祉部局との連携をし、重い負担をしている子供がいることを認識して、適切な対応をしていく。

垣根を越えて

石川県 学校薬剤師

笠原 友子 様



「糖尿病」と言う病名を聞いたことはありますか？

世界中で蔓延し、日本を含む西太平洋地域で急増しています。遺伝的な罹りやすさはあるものの、生活習慣病と言われるくらい人々はその生活の中で病

気になっています。

私は予防医学を志す開局薬剤師兼学校薬剤師です。子供たちと子育て世代の糖尿病予防に取り組んでいて、博士(医学)の学位を戴きました。糖尿病への取り組みは、30年ほど前に我が子を育てられなかった患者との出会いから始まりました。子供たちの親世代は若くて健康にはなぜか自信満々です。そこで、10年ほど前から中学生を通じた家庭への健康教育を試みています。対象が中学生の訳は、思春期の自我が芽生える年ごろに生活習慣を自覚してもらえば、家庭に持ち込んで家族に伝わりやすいのではないかと考えたからです。

やっていることはシンプルです。中学校の学活の時間に、厚生労働省の国民健康栄養調査をベースにした生活習慣改善アンケートを行い、生徒に自分の生活習慣を自覚する機会を作っています。個人の結果に対して特にコメントはしません。結果集計をもとに学校保健委員会でのアドバイスや、薬物乱用防止教室の際に短く注意喚起をしています。

この初年度の試みを、翌年の石川県学校保健研究大会で発表しました。アンケートを作成する時点でも職員会議で紛糾しました。そして、会場でもやはり校長先生方を中心に閉会ギリギリまで紛糾しました。理由は、アンケートの中に喫煙の項目を入れていたからです。実は、このアンケートを始める直前に、薬局に禁煙指導を求めに中学生ほどの年頃の生徒が来ていましたが、指導直前に逃げ出してしまっていました。そんな子が他にもいるかもしれないと思って項目に入れましたが、これは正解でした。アンケートの結果、喫煙と朝食摂食習慣が関係していることが分かったのです。すぐに学校側は、夏休みの親子行事や日常の保健活動に「朝食を食べよう」運動を展開してくださり、その取組結果は早くも翌年に出ました。1年置いて、校長として戻ってきた当時の教頭先生が、別の学校かと目を見張ったほど学校全体が落ち着いていたそうです。これをきっかけに、小学校との合同学校保健委員会が実現されました。小学校で取り組んだことを中学校に行っても継続できるためにです。

生徒の行動が何らかの生活習慣に基づいた結果であろうことに気づいた矢先に、次なる課題が現れました。20歳代後半と30歳代前半の若者が、立て続けに糖尿病改善の生

活指導を求めに薬局に来たのです。視力低下をきっかけに糖尿病への罹患が分かり、糖尿病性白内障の手術をして帰って来ていました。白内障の手術をするには、あまりにも若い彼らとの出会いが大学での研究の第一歩となっています。

生活習慣病である糖尿病。それも糖尿病性白内障は合併症ですから、発症するまでに時間があり、高血糖につながる生活習慣が中学時代の生活の中に隠れているのではないかと当時は思ったのです。後日調べると、若者が手術を要する白内障を発症するまでの時間は思いのほか早かったです。

成人式に血糖状態を測定することで、高血糖につながる中学生時代の生活習慣が、見つかりました。すぐにイメージが目の前に浮かぶような生徒たちです。つまり「中学生時代に朝起きて疲れが十分に取れていなかった、中学生時代のBMIが19以上または、成人時のBMIが22以上の者」が、成人時に統計的有意に高血糖群にいました。一般的に、体格(BMI)と高血糖は関係すると言われています。今回、新成人達に体格は関係ありませんでした。それよりもむしろ、中学生の頃の睡眠の質の悪さが影響していたのです。推定される理由としては、栄養素不足です。食事として摂った三大栄養素(糖質・脂質・たんぱく質)をエネルギーに変換するためには、ビタミンやミネラルの栄養素が必要です。睡眠のためと成長期に必要な栄養素とには、多く重複するものがありますから、体の修復や成長に必要な栄養を使ってしまう、睡眠に必要な栄養が不足してしまったようです。小さな町なので対象者も少なく一般化できない研究結果ではありますが、海外の医学雑誌に収載していただいています。

学校生活と家庭生活、アンケートに参加して生徒自身が自分の生活習慣を認識することで、学校生活も落ち着いて行っているように見えて、その基礎となる家庭生活の重要性が再認識させられます。学校薬剤師は毎日学校にいませんので日常は分かりませんが、年に一度、薬物乱用防止教室で全校生徒の前に立つと、生徒たちの変化が見えます。講演後に、生徒たちからは活発に健康に関する質問も寄せられます。ここまで来るのにどれほど努力をされたのだろうと慮りつつ、先生方のお言葉に甘えて、年中行事のように生活習慣改善アンケートは続けさせていただいています。子供たちも親たちも健やかで、子供たちの夢が叶うように願って。

地区情報交換

【北海道地区】

8月にオンラインで開催した創立50周年記念式典と第48回研究大会上川大会では、3年ぶりに実現した対面での分科会において、全道会員の親交と研修を深めることができた。今年度からオンライン開催とした12月の役員会・研修会では、全道15地区の交流を中心に行っている。後継者育成に向けた研修や学校経営における実践等、各地区における取組について交流するとともに女性管理職として多くの学びを得ることができた。また、令和6年度全国大会北海道大会に向けて、北海道全体で情報共有をしながら準備を進めている。

【東北地区】

東北地区は、今年度東北大会の予定がないため、各県ごとに県総会や研究会を実施した。令和5年度東北大会(福島県大会)の日程が7月28日南相馬市に決定し、東北3県合同最後の研修会の準備が進んでいる。東北地区理事会の1回目は紙面開催となったが、2回目は、第2回全国理事会開催に合わせて、対面で実施した。令和8年度全国大会(青森県大会)の準備と東北地区の今後の活動、研修のあり方について、情報交換した。

【関東地区】

関東地区では、令和4年度は、感染症拡大に配慮しながらオンラインとYou Tubeによる配信を組み合わせ、総会及び研究協議大会栃木大会を開催した。対面での開催を目指しつつ、新たな視点を持ち、書面やリモート等連携方法を工夫しながら令和5年度千葉大会、令和6年度埼玉大会の実施に向け、正・副会長研究協議会(11月)や理事会(2月)を開催し、方向性を丁寧に確認しながら準備を進めている。

【東京地区】

令和3年度末に管理職を対象に実施した「人材育成に関する管理職の意識調査」結果をもとに、10月に東京都教育庁人事部と、若手教員の育成・昇任選考受験への声掛け・ロールモデルの提示などについて情報交換を行った。12月には「学校経営研究会」を参会及びオンラインによるハイブリッドで開催し、女性校長だけでなく、管理職を目指そうとする教員や若手教員等幅広い層からの参加を得て盛会となった。

【中部地区】

中部大会も兼ねた「第72回全国研究協議大会石川大会」を、夏にオンデマンドで開催し、12月に特集号で誌上開催することができた。オンデマンド開催には、中部地区を中心に全国から多数参加いただき、アンケートにも積極的に回答いただいた。あらためて「人のつながりの大切さやありがたさ」を実感している。今後も、中部地区理事会等を通じて、各県の研修の在り方など情報交換を進め、職能向上や後継者育成に向けて取り組んでいきたい。

【近畿地区】

兵庫県・和歌山県は8月、大阪府・奈良県は12月に

講師を招き研修会を集合開催した。京都府・市は合同研修会を中止し、京都市は11月の研修会を集合とオンラインのハイブリッドで開催した。滋賀県は10月に大会を紙面開催した。令和5年7月28日に予定されている近畿(大阪)大会は、集合で一日開催し、記念講演と6府県からそれぞれ分科会にて発表を行っていただく予定で準備を進めている。

【中国地区】

中国地区では、今年度、会員のつながりを大切にし、校長としての資質を高める研修が新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながらも、各県で積極的に行われている。誌面、オンライン、対面のそれぞれのよさを生かして研修が進められるようになった。特に、山口県では来年度の第73回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会山口大会の開催に向け、対面できるように準備を進めている。

【四国地区】

四国地区は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、電話やメールでの情報共有を行っている。令和4年12月10日に開催予定であった第26回四国地区公立小・中学校女性校長会研修大会香川大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため誌上発表で情報交換を行うことで貴重な研修の機会となった。今後も「四国は一つ」を合言葉に研鑽に努めていきたい。

【九州地区】

第55回九州地区公立学校等女性管理職研究協議会長崎大会は、ハイブリッドで8月10日に一日開催で実施した。参加者は約400名(来場者100名余り、オンライン参加者約280名)。ICT技術スタッフがいるマイス施設利用で、会員の負担軽減の一つとなった。分科会と講演(演題「学校と多様性」)、全体講評を中心に全てを配信したこともあり、内容がより充実し、盛況のうちに閉幕できた。来年度の鹿児島大会については、すでに一次案内が発出しており、8月2日にハイブリッド型で開催予定である。また、普段の活動については、各県とも、定期的に充実した研修を行っている。

【中学部】

学校行事の実施状況、人材育成、学習評価等について情報交換を行った。宿泊や学校行事については、様々な感染症対策の上で実施、その意義の大きさを確認した。中学校における女性管理職は、地区により多少の差はあるものの依然低い割合に留まっている。管理職適齢期だけでなく、若手のうちから意図的に育成を図ることが重要である。適正で信頼される学習評価については未だ課題が多い。継続的な研究・研修が求められる。

令和5年度

第73回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会

令和5年度中部地区公立小・中学校女性校長研修会

山口大会

大会主題 自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る 日本人を育成する学校教育の推進

～ふるさとに誇りをもち 未来社会の創り手となる子供を育む学校経営～

期 日 令和5年8月3日(木)・4日(金)

開催地 山口県山口市

会 場 ホテルかめ福

ホテルニュータナカ

おいでませ 山口へ



分科会主題および分散会協議題

分科会	分科会主題	分散会協議題		提案・司会
第1分科会	「生きる力」を育む 学校経営	①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実を図り、 自ら未来を切り開く力を育む学校経営	愛知県
		②	カリキュラム・マネジメントの充実を図り、 主体的・創造的に生きる力を育む学校経営	東京都
第2分科会	教職員の資質・ 能力の向上を図る 学校経営	③	教師としての専門性や指導力の向上を図り、 「教師力」を高める学校経営	三重県 (中学部)
		④	教職員の参画意識・協働意識を高め、 組織の活性化を図る学校経営	山形県
第3分科会	新たな課題に取り 組む創意ある 学校経営	⑤	学校組織マネジメントを生かし、 新たな課題に取り組む創意ある学校経営	神奈川県
		⑥	学校、家庭・地域社会がつながりを深め、 新たな課題に取り組む創意ある学校経営	香川県

令和5年度 第1回 理事会のお知らせ

期 日 令和5年8月3日(木) 午前9時30分から

会 場 山口・かめ福 オンプレイス

第74回 全国公立小・中学校女性校長会

全国研究協議大会

北海道大会

期 日 令和6年8月1日(木)・2日(金)

開催地 北海道札幌市

会 場 京王プラザホテル札幌

